

『里山摘み草料理歳時記』

新潟県上越市桑取地区、通称桑取谷は、頸城連峰を源流とする上流の桑取川、そして日本海に注ぐ下流の有間川沿いに幾つかの集落を形成する農村地帯である。その名からもわかるように、かつては養蚕業で栄え、また林業なども盛んであったという。

この谷を一躍有名にしたのは、昭和三十一年に刊行された写真家・濱谷浩氏による、雪国の暮らしをテーマにした写真集『雪国』である。以来半世紀あまりがたち、人々の暮らしも風景も、大きく変わつつある。それでも小正月行事などに見られる一連の祭りに寄せる人々の気概に接するとき、その根の太さ、したたかさに驚かされる。

かつてある民俗学者が、「半島は文化の吹き溜り」だといひ表した。出口がないため文化の古型が集積するのだと。それ

に倣うというならば、谷もまた文化の吹き溜り、その集積庫」ともいえるだろう。吹き溜りとは、また「福溜り」でもある。平成に入って上越市では、この谷の民俗的な価値、過疎化対策と桑取川源流に広がる広大な水源涵養林地区の保全などの観点から、日本海から川を遡る谷一帯を里再生地区と位置づけ、尾根を越えた集落も含めた一体活性化の活動を展開している。

この本は、桑取谷の行事や風習。採れる山菜や雑草の料理を美しい写真と文で紹介したものである。(編集部)

『里山摘み草料理歳時記』

越後「桑取谷」の図と写真

篠原準八 料理と文

佐藤秀明 写真

東京書籍 定価二〇〇〇円十税

